

ほしん 戊辰戦争と明治初期の千葉市域

◆千葉周辺の戊辰戦争

慶応4年（1868）に戊辰戦争がはじまり、同年4月には江戸城が開城されます。この前後から多くの旧幕府軍勢は江戸を脱出し、関東各地で戦いを繰り広げました。房総地域では上総西部で兵力を蓄えていた幕府撤兵隊勢が4月下旬市川・船橋方面へ進出しますが、閏4月3日新政府軍との戦いに敗れ（市川・船橋戦）、本拠を構えた木更津方面に撤退しました。これを追撃して同月6日までに新政府軍が続々と千葉市域に入ってきました。薩摩・長州・岡山藩などは曾我野（現中央区蘇我町）に、佐土原・薩摩藩別隊が千葉町（現中央区本町付近）に、大村藩が寒川（現中央区寒川町）に駐屯しています。このとき千葉町に駐屯した藩兵は妙見寺（現千葉神社）に宿営し、周辺の人々が炊き出しや戦闘以外の用務にかりだされたといわれています。翌7日午前6時頃、上総八幡（現市原市八幡）から養老川、五井・姉ヶ崎間において戦端が開き、午後3時頃には撤兵隊勢は壊滅しました。この戦いの後、同年5月には下総野鎮撫府が設置され、肥前佐賀藩が武力を背景に下総・下野をその管理下に置きました。

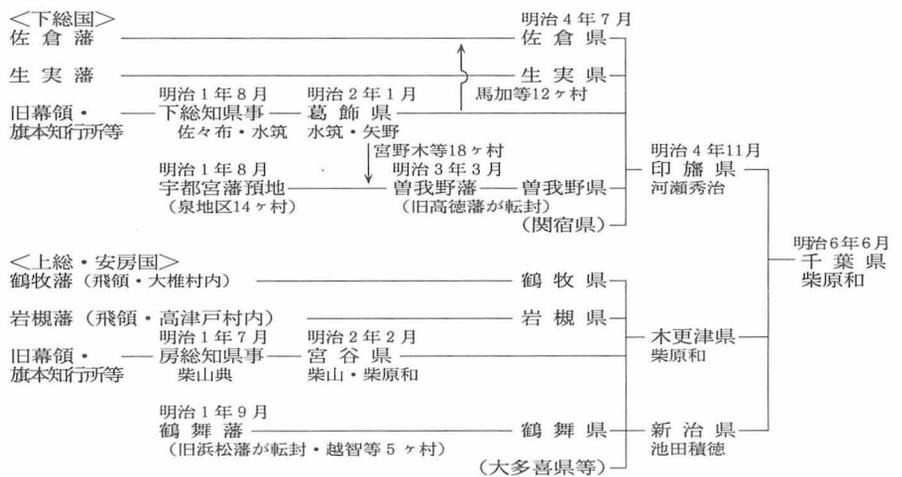
◆直轄県の設置から千葉県成立まで

慶応4年7月、旧幕領・旗本知行所など藩領以外の地域を統括するために、筑後久留米藩の柴山典が房総知県事（上総・安房）に、翌月には熊本藩の佐々布貞之允が下総知県事にそれぞれ任命されました。

明治元年（1868）12月、佐々布の後任として豊後佐伯藩から赴任した水筑龍は、翌年1月に下総知県事の管轄地が葛飾県となるとそのまま葛飾知県事に就任しました。水筑は江戸時代に中断された印旛沼開削工事を計画するなど積極的な県政を展開しましたが老齢のため辞任、後任は同藩出身の矢野光儀が勤めました。矢野は水害による被災難民に米や種籾の貸し付けを行ったり、その年の徴税を見送るなどの救済策を独断で行ったため、明治政府から多額の罰金を命じられています。2月には房総知県事の管轄地も宮谷県となり、引き続き柴山が知県事を勤めました。

一方藩領は、明治2年の版籍奉還（土地と人民を朝廷に返還）で各藩主が知藩事となっています。同4年の廃藩置県で藩が「県」になると、彼らは罷免され東京に移住し華族となりました。同年11月には下総国各県が印旛県に合併・再編成され、更に同6年印旛県・木更津県、そして新治県の一部が合併して千葉県が発足しています。

藩県の沿革（千葉市域を中心に）



曾我野藩 ～明治に成立した藩～

江戸時代末期の慶応2年（1866）、戸田忠至は宇都宮藩主戸田忠友から同藩領内の1万石を分与され、大名（高德藩・宇都宮藩の支藩）となりました。その領地は下野国（現栃木県）と河内国（現大阪府）に点在していました。跡を継いだ忠至の子忠綱は、明治2年版籍奉還により高德藩知事に任命されましたが、翌年下総国千葉郡・印旛郡内18ヶ村に転封（領地替え）を命じられ、新たに曾我野藩が成立しました（このとき曾我野村に藩庁を置いています）。その後明治4年7月の廃藩置県により曾我野県と改称し、同年11月には印旛県に組み込まれました。